

## 資料2

### その他説明資料

目次

頁

1	名古屋港審議会提出予定案件	1
2	港湾環境整備負担金対象工事の指定について	2
3	国際競争力の強化に向けた取組について	3
4	しゅんせつ土砂処分の対応について	4
5	名古屋港の防災対策について	5
6	トマリ等の対策について	6
9	その他関係機関	9

## 港湾環境整備負担金対象工事の指定について

港湾法第43条の5第2項の規定に基づき、港湾環境整備負担金（緑地整備、漂流物の除去等に要した費用の2分の1を限度として、臨港地区内の事業者（敷地面積1万㎡以上）にその費用の負担を求める制度）を徴収しようとするときは、地方港湾審議会（「名古屋港審議会」）に付議し、その意見を聴くこととされている。

今年度の負担金について、下表のとおり諮問するものである。

工事の種類及び名称	工事に要した費用	負担割合	工事に要した費用に負担割合を乗じた額 (a)	負担区域内の事業場敷地面積の合計 (b)	負担対象事業者の事業場敷地面積の合計 (c)	負担金徴収予定額 (a) × (c) / (b)	1㎡当たりの負担金額	工事内容
港湾環境整備施設の建設又は改良の工事 ・ガーデンふ頭臨港緑園整備工事	千円 7,729	1/4	千円 1,932	千㎡ 37,244	千㎡ 27,268	千円 1,415	円 0.05	緑地、広場、植栽、休憩所等の建設又は改良のための工事
港湾環境整備施設の維持の工事	166,588	1/2	83,294	34,607	27,268	65,630	2.41	除草、施肥、樹木補植、清掃、附属施設の修繕等緑地維持のための工事
港湾における漂流物の除去等の工事	32,749	1/2	16,375	37,201	31,454	13,845	0.44	漂流物の除去及び処理のための工事
合 計	207,066		101,601			80,890	2.90	

## 国際競争力の強化に向けた取組について

名古屋港は、コンテナ貨物、バルク貨物、完成自動車を取り扱う総合的な港湾であり、背後地域の高付加価値を産み出す「ものづくり産業」を強気に支援する「国際産業戦略港湾」の実現に向け、港の強靱化を図るとともに、港湾機能の強化に取り組んでいる。

### 1 名古屋港の港勢（平成30年上半年（1月～6月））

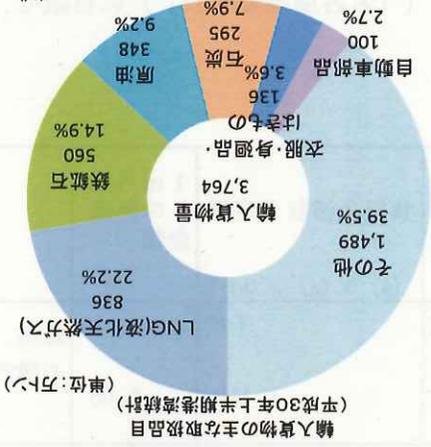
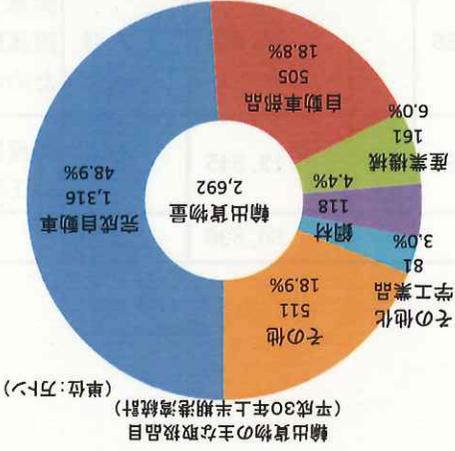
#### (1) 名古屋港の統計

総取扱貨物量	9,795万トﾝ(前年同期比 1.4%減)
内 外買取扱貨物量	6,456万トﾝ(同 増減なし)
輸出貨物量	2,692万トﾝ(同 4.0%増)
輸入貨物量	3,764万トﾝ(同 2.7%減)
外貿コンテナ取扱個数	132万TEU(同 4.0%増)
自動車輸出台数	70万台(同 11.0%増)
貿易額	8兆7,158億円(同 8.4%増)
貿易黒字額	3兆6,408億円(同 14.2%増)

#### (2) 貨物動向（右図参照）

輸出では、完成自動車の中東向けを中心に増加し、1,316万トﾝ(前年同期比5.8%増)、産業機械が中国向けを中心に増加し、161万トﾝ(同16.9%増)となった。一方、自動車部品が505万トﾝ(同2.8%減)とやや減少した。

輸入では、LNG(液化天然ガス)が836万トﾝ(同2.6%減)となった。背景として、春先の気温上昇に伴う暖房需要の低下が要因と考えられる。また、原油が港内の製油所の稼働調整に伴い、348万トﾝ(同20.8%減)と減少した。



出典：港湾統計(連報値)  
※ 端数処理上、合計値が合わない場合がある。

## 2 港湾政策の方向性

### (1) 国の取組（港湾の中長期政策『PORT 2030』）

国土交通省港湾局においては、これまで各種の港湾政策を展開してきたが、国内外の激変する環境の中で2030年頃の将来を見据え、我が国経済・産業の発展及び国民生活の質の向上のために港湾が果たすべき役割や、今後特に推進すべき港湾政策の方向性等を、「港湾の中長期政策『PORT 2030』」として平成30年7月31日に取りまとめた。

### (2) 本組合の取組

「港湾の中長期政策『PORT 2030』」では、情報通信技術（AI・IoTなど）を活用した港湾のスマート化・強靱化、地球環境配慮のための港湾・物流活動のグリーン化などが示されている。

名古屋港において、自動化コンテナターミナルやコンテナ情報を一元管理するコンピューターシステムが既に稼働するなどの実績がある中、本組合としては、引き続きコンテナ取扱機能の強化を始め、集貨拡大や産業立地の促進等に取り組むとともに、既存システムの充実・高度化やターミナルの生産性向上について関係者と議論を深めながら、港湾のスマート化を推進するよう国に働きかけていく。

また、海事分野における世界的な環境規制の強化に伴い、増加が見込まれるLNG燃料船への対応として、LNGバンカリング拠点の形成を目指し、更なる物流の利便性向上・競争力強化を図る。

一方、ポートアイランドについては、平成29年度に名古屋商工会議所により「名古屋港ポートアイランド将来利用に向けた提言」が取りまとめられており、本組合としては、地域経済・産業の発展のために港湾が果たすべき役割等の観点から、その活用方法について検討を進めている。

### 3 コンテナ取扱機能の強化

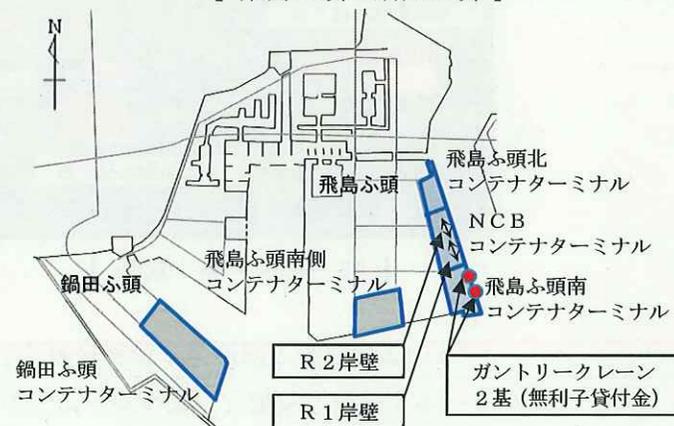
船舶の大型化等に対応するため、増深（水深12m→15m）及び耐震化に事業着手した飛島ふ頭のNCBコンテナターミナルR1岸壁、R2岸壁のうち、R1岸壁については、平成29年7月より工事を進めており、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

また、伊勢湾（名古屋港・四日市港）の港湾運営会社である名古屋四日市国際港湾株式会社は、平成30年4月に公表した中期経営計画に基づき、コンテナターミナルの効率的な運営や機能強化に取り組んでおり、無利子貸付金を活用して整備した大型ガントリークレーン2基が既に供用開始している。引き続き同社は、ガントリークレーンのリプレースを進めるなど、港湾利用者サービスの向上に取り組んでいく。

### 4 完成自動車取扱機能の強化

完成自動車取扱機能の集約・拠点化や自動車専用船の大型化などに対応するため、金城ふ頭において、新規岸壁の整備及び保管用地の造成について、平成30年12月の埋立免許取得を目途に手続き等を進め、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

【 飛島ふ頭・鍋田ふ頭 】



【 金城ふ頭 】



5 集貨拡大、産業立地の促進  
(1) ポートセールス等

背後地域からの集貨拡大や産業立地を促進していくため、官民一体となった国内外のポートセールス及び企業誘致活動を行っている。国内では、名古屋港の現状と活用メリットを説明するため、船社、荷主、商社、物流関係者等を対象とした利用促進懇談会を名古屋、浜松において開催し、今後は、東京においても開催する予定である。また、背後地域における企業や自治体等への訪問に加え、大規模展示会やセミナーへ参加するなど、積極的に名古屋港のPRを行っている。

海外では、名古屋商工会議所との共催による使節団を欧州に派遣した。さらに、港湾関係者で構成する調査団を東南アジアに派遣する予定であり、船社や荷主に対し、中部地域のポラシニヤルを積極的にPRするなど、名古屋港利用に向けたポートセールスを実施していく。

平成30年10月16日には貿易促進と港湾ビジネスの拡大を図るため、「HAROPA-ル・ブール港」と新たなパートナーシップ港提携を行った。既存の姉妹港、パートナーシップ港及び中国港湾とも交流を深めるなど、海外港湾との連携を推進していく。

(2) 埋立地の分譲と造成

港勢の発展に資する企業の進出用地である分譲地は、弥富ふ頭第1貯木場埋立地の約2.0haと飛島ふ頭第2貯木場埋立地の「JR東海貸付用地を除く約7.2haであり、名古屋港の物流拠点として重要な土地であることから、企業動向の把握に努めながら、着実な売却に向け、分譲地の分割可能性について検討していく。

また、新たに弥富ふ頭第1貯木場南埋立地約9.6haが平成30年7月17日、稲永ふ頭埋立地約3.3haが同年10月25日に埋立工事が竣功したことから、順次、基盤整備を進めていく。

さらに、コネクタ貨物の増加等に対応した物流用地を確保するため、弥富ふ頭第1貯木場北側において平成30年9月28日に埋立免許を取得したところであり、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

【 弥富ふ頭・飛島ふ頭 】



- : 分譲地 (第1貯木場) (約 2.0ha)
- : 分譲地 (第2貯木場) (約 7.2ha)
- : 分譲済み (平成27年度公募) (約 2.9ha)
- : 分譲済み (平成29年度公募) (約 2.0ha)
- : JR東海貸付用地 (約 6.4ha)
- : 第1貯木場南 (平成30年7月竣功) (約 9.6ha)
- : 第1貯木場北側 (約 17.0ha)

【 稲永ふ頭 】



□: 稲永ふ頭 (平成30年10月竣功) (約 3.3ha)

## しゅんせつ土砂処分の対応について

### 1 課題

名古屋港が国際競争力を強化し持続的に発展していくためには、コンテナ船等の船舶の大型化に対応した航路・泊地の拡幅・増深や、港湾施設の機能維持のためのしゅんせつを継続的に行っていく必要がある。

これらのしゅんせつにより発生した土砂を受け入れているポートアイランドは、既に当初の埋立計画高を超えて仮置きしており、それも限界に近づいていることから、早期に土砂処分場の確保が必要となっている。

一方、名古屋港内は、既に物流用地や航路・泊地などにより高度利用されており、大規模な土砂処分場を計画することが困難な状況となっている。

### 2 取組状況

国は、新たな土砂処分場について、有識者からなる検討委員会や、本組合を始めとする関係機関との連絡会を開催し検討を進め、総合的な視点から、中部国際空港沖を候補地として選定した。

平成29年3月の「中部国際空港沖公有水面埋立事業環境影響評価方法書」においては、名古屋港の港湾整備に伴い発生するしゅんせつ土砂を処分するための新たな埋立地を計画し整備するものとし、その計画容量は3,800万 $\text{m}^3$ とされている。現在は、環境影響評価法に基づく方法書手続きが完了し、準備書の手続きに向けた資料作成を行っている。

本組合は、国や愛知県及び名古屋市などと連携し、漁業関係者の理解を得ながら鋭意取り組んでいく。

## 名古屋港の防災対策について

本組合の防災対策は、まずは「命」を守ること、そして、その後の「生活」を守ること、さらに、継続した地域経済・社会の発展には「産業」を守ることを施策の柱とし、大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくりの実現に向け、海岸保全施設等の防災施設の機能強化、耐震強化岸壁の整備、港湾機能継続計画の策定及び所在市村や関係機関と連携した津波避難対策の推進等、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策を計画的に遂行していく。

### 1 ハード対策

#### (1) 防潮壁

高潮対策として、総延長約26.4kmのうち、経年沈下により天端高が不足していた箇所の高上げが平成29年度に完了した。

地震・津波対策として、水際線に面し背後地盤高が低い区間の液状化対策等を優先的に進めており、約2.0kmが完了している。

引き続き、三河湾・伊勢湾沿岸海岸保全基本計画（平成27年12月変更）において、今後概ね10年以内に着手及び着手検討する箇所として位置付けられた15.7kmについて、平成30年度完了を目的に耐震性調査を実施しており、順次、対策が必要な箇所について整備を進めていく。このうち、築地東ふ頭地区約1.3kmは平成27年度から、潮見ふ頭地区の南西部約0.5kmは平成28年度から整備を進めており、早期の完了を目指していく。

#### (2) 防潮扉

防潮扉のアルミ化による改良については、平成30年度に1カ所を整備し、引き続き利用者調整を行いつながら、平成31年度完了を目的に残り4カ所の整備を進めていく。また、使用しない扉については、平成31年度に残り1カ所を廃止する予定である。

#### (3) 堀川口防潮水門・中川口通船門

堀川口防潮水門については、既存の水門の地震・津波対策として、平成33年度完了を目的に、平成27年度から躯体の耐震補強工事を実施しており、平成29年度に4号通航水門の耐震補強工事を完了した。平成30年度は、3号通航水門の耐震補強工事を完了するとともに、2号通航水門の耐震補強工事に着手した。

なお、既存の水門は高潮対策に主眼を置いた構造であることから、その老朽化対策と併せ、津波に対する安全性を更に高めるために、新たな水門の整備に向けた検討を進めている。

また、中川口通船門についても、既存の水門の地震・津波対策として、平成30年度完了を目的に、平成27年度から躯体の耐震補強工事を実施している。

#### (4) 耐震強化岸壁

緊急物資輸送対応の耐震強化岸壁については、老朽化対策と併せ耐震機能の維持、強化の対策を実施している。大江ふ頭は、平成31年度完了を目的に平成26年度から整備を進めており、潮風ふ頭は、平成30年度完了を目的に平成28年度から整備を進めている。

また、金城ふ頭の新たな耐震強化岸壁については、平成30年12月の埋立免許取得を目途に手続き等を進め、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

コンテナなどの幹線貨物輸送対応の耐震強化岸壁については、飛島ふ頭のNCBコンテナターミナルR1岸壁、R2岸壁のうちR1岸壁について、平成29年7月より増深（水深12m→15m）及び耐震強化岸壁として改良を進めており、引き続き、早期完成に向けて取り組んでいく。

## 2 ソフト対策

### (1) 港湾機能継続計画（港湾BCP）

名古屋港BCP協議会を平成30年9月に開催し、名古屋港BCPに基づく行動計画の見直しや情報伝達方法の具体化など、平成30年度に協働して検討する事項を確認した。

また、伊勢湾BCP協議会においても、実務的な調整を行う作業部会が平成30年9月に開催され、資機材調達などの手順の見直しや新たに被害状況調査などの手順について検討していくこととした。

引き続き、国を始めとする関係者と連携し、実効性の向上に取り組んでいく。

### (2) 関係機関との連携等

臨港地区内の津波一時避難施設を活用した津波避難訓練、GPS波浪計の観測情報の利用者拡大に向けた対応や津波観測等に係る動向の把握に、引き続き取り組んでいく。

また、名古屋市域及び愛知県下で実施される石油コンビナート等防災訓練に参画し、防災体制の強化に努めるとともに、「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」や「名古屋港所在市村防災連携会議」等を活用し、関係機関と防災に関する意見交換、情報共有を引き続き図っていく。

## 3 台風による影響について

台風21号により、西部木材港における係船浮標2基の係留チェーン切断による漂流、新舞子マリパークにおける人工海浜の砂の流出などの被害が発生したものの、港湾施設などへの大きな被害はなかった。

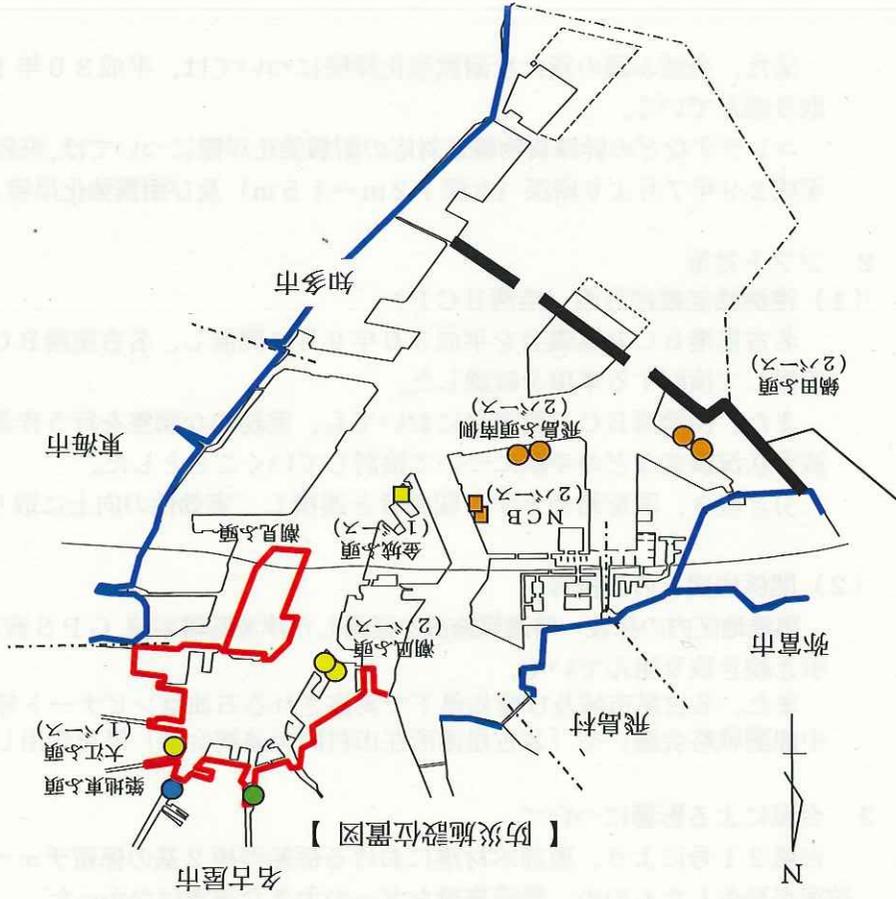
また、台風24号についても、港湾施設などへの大きな被害はなかった。

今後は、台風21号により、大きな被害があった大阪港、神戸港などの状況を把握しつつ、必要な対策を検討していく。

(台風21号及び24号の概要)

日付	最接近時中心気圧	最大瞬間風速※1	最高潮位※1	最大偏差※1
平成30年9月4日	960hPa	46.3m/s	N. P. +3.43 <sup>m</sup>	158cm
平成30年9月30日	960hPa ~965hPa	37.8m/s	N. P. +3.63 <sup>m</sup>	143cm
昭和34年9月26日	940hPa	45.7m/s	N. P. +5.31 <sup>m</sup> ※2	345cm

※1 台風21号及び24号については名古屋港管理組合が観測した値、伊勢湾台風については名古屋地方気象台ホームページによる  
 ※2 T. P. +3.89<sup>m</sup>をN. P. 表記に換算した値



高潮防波堤	高潮が背後地域へ浸入するのを防ぐための施設 全長7.6km 高さN. P. (名古屋港基準面) + 8.0m (地震・津波対策の改良工事が平成28年度完了)	■
防潮壁	高潮が背後地域へ浸入するのを防ぐための施設 全長26.4km 高さN. P. + 6.0 ~ 6.5m	■
防潮扉	防潮壁の開口部35箇所に設置	■
堀川口防潮水門	高潮時等に海と川を遮断して市街地への浸水被害を防ぐために設置	●
中川口通船門	中川運河の水位を一定に保つために設置 通航船舶の利用時に水位調整を行うて開閉	●
耐震強化岸壁	緊急物資輸送の確保のため内港地区に3バース及び国際海上コンテナ輸送の確保のため西部地区に4バースを整備 (四角は新規整備)	■ ●
海岸堤防	愛知県が管理する堤防	■

## ヒアリ等の対策について

特定外来生物のヒアリは、平成30年8月29日現在、名古屋港を含め14都道府県で37事例が確認されている（環境省発表）。

### 1 名古屋港におけるヒアリ等の確認

コンテナターミナル等において、ヒアリが8事例、ヒアリと同じく特定外来生物のアカミアリが3事例確認されている。

#### 【 ヒアリ 】

	確認日	発見場所
1	平成29年 6月30日	鍋田ふ頭（弥富市）
2	7月12日	飛島ふ頭（飛島村）
3	8月 4日	鍋田ふ頭（弥富市）
4	9月 1日	船見ふ頭（名古屋市港区）
5	10月 2日	鍋田ふ頭（弥富市）
6	11月 7日	鍋田ふ頭（弥富市）
7	平成30年 7月 5日	飛島ふ頭（飛島村）
8	8月23日	鍋田ふ頭（弥富市）

#### 【 アカミアリ 】

	確認日	発見場所
1	平成29年 7月12日	飛島ふ頭（飛島村）
2	9月29日	飛島ふ頭（飛島村）
3	平成30年 7月12日	飛島ふ頭（飛島村）

#### 【 コンテナヤードの舗装改良の様子 】



### 2 名古屋港におけるヒアリ等確認後の対応

本組合、環境省、国土交通省、愛知県、名古屋市等の関係機関、港湾関係者が連携して、調査、防除、注意喚起等に取り組んでいる。現在は、コンテナターミナルにおいて概ね1カ月毎に、発見場所付近の臨港緑地、臨港道路等において概ね3カ月毎に調査を実施している。

また、ヒアリの定着防止を図るために国土交通省が創設した補助制度を活用しながら進めているコンテナヤードの舗装改良については、今後も引き続き実施していく。

### 3 今後の取組

本組合では、コンテナターミナル等の調査を継続するなど、引き続き、関係機関、港湾関係者と連携して水際での防除に取り組んでいく。

なお、平成29年7月に名古屋港で確認されたブラウジングアントについては、在来の生態系に大きな影響を与える可能性が高いことから、愛知県を始めとする関係機関と連携して対応している。

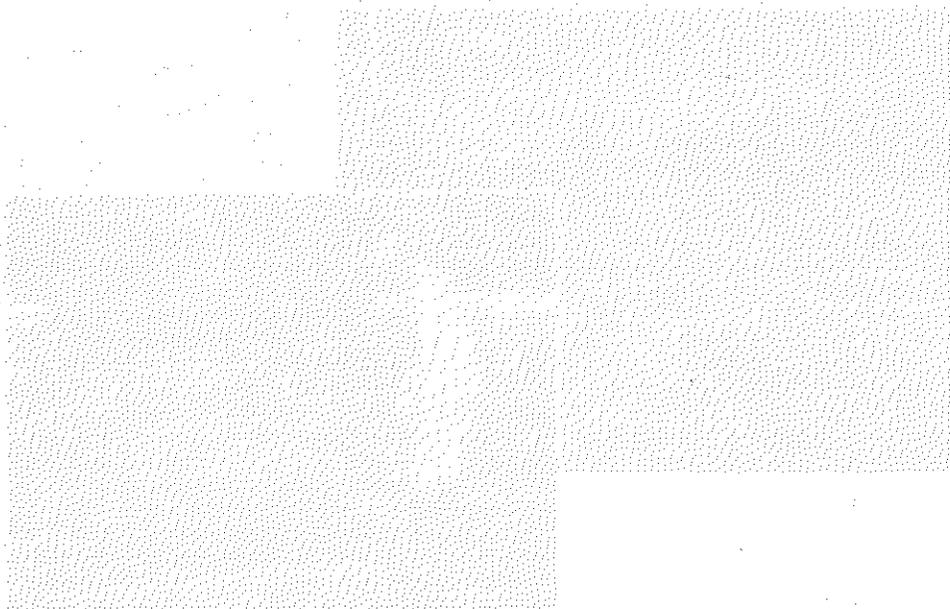
Handwritten title or header text.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text

Handwritten text line.



Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text
Handwritten text	Handwritten text	Handwritten text

Handwritten text block.

Handwritten text block.

Handwritten text block.